

古賀市地域活動サポートセンターにおける高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（2018年～2020年）の振り返り

めざす姿		活動の視点	主な事業、取組	主な成果	課題
<p>●基本理念 住み慣れた地域でともに支えあい、最期まで安心して暮らせるまちづくり</p> <p>●基本目標 みんなで支え合う地域づくりをしよう</p> <p>●基本施策 地域支え合い体制の構築</p> <p>●取組の柱 ③②① ③ 自主的 ② 地域 ① 主体的 での多様な活動による 介護予防の推進 場の充実に よる支援の創設</p>	地域支え合いネットワークの構築	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防と生活支援の活性化を協議する地域支え合いネットワーク（協議体）の構築と推進 生活支援コーディネーターの配置（第1層1名市職員・第2層1名社会福祉協議会に業務委託） 地域活動サポートセンター運営委員会 	<ul style="list-style-type: none"> 第1層生活支援コーディネーターを中心に、毎年高齢者を取り巻く状況の分析を行い、地域課題をともに解決していく話し合いを積み重ね、地域で支え合いを行うための基盤づくりができた。 平成30年度から委託している第2層生活支援コーディネーターを中心に、令和元年度には、8校区で地域支え合いネットワークの意見交換会を開催し、小学校区ごとに地域状況を協議する体制を作った。 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、「お元気ですかカード」を作成した。コロナ禍で高齢者の見守りを行う民生委員やシニアクラブ等の希望者にカードを配布し、見守りや地域の繋がりが維持できるように取り組んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の拡大で、これまで推進してきたつどいの場の支援が行いにくい状況となった。今後、つどいの場支援の方法を研究し、提案していく。 古賀市内でも認知症や一人暮らしの見守りの必要性などが高まってきており、市民の支え合いだけでなく企業やNPOも巻き込む取り組みが求められている。 	
	人材育成	<ul style="list-style-type: none"> 運動や音楽等で地域のつどいの場や高齢者施設等の活動を支援する人材の育成（サポーター養成講座及びフォローアップ研修会、ゆいさほ教室、ちよいサボ研修） 	<ul style="list-style-type: none"> ゆいの利用に関して、個人的な趣味活動で終わりがちな傾向があったが、この3年間で見直し、地域活動を支援する意識づけを行い、自主性と自立性をもった介護予防サポーターを育成できるようになった。サポーターによる支援活動や出前講座も着実に増加している。 平成31年度からビデオ研修を導入し、介護予防サポーターが全員研修を受講できるようにした。 既に運動や音楽で介護予防サポーター活動をしている人に、フォローアップ研修会を実施することやサポーターの登録に併せて研修をおこなうことで、サポーターのスキルや意識の向上を図る体制ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防サポーターの高齢化が課題となっており、解決のためにも、若い世代が関心を持つような人材育成の工夫が必要となっている。 介護予防サポーター活動を通して高齢者自身が生きがいを感じるようになるように、継続的な意識啓発を行う必要がある。 	
	社会資源の見える化・情報提供	<ul style="list-style-type: none"> 地域支え合いネットワーク通信の作成（第4号～第9号発行。10号、11号発行予定） 介護予防を推進する教材等の作成等 	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動や在宅の健康づくりを進めるために、古賀市独自の介護予防教材を多数作成、住民に提供し非常に好評である。コロナ禍においても自主的な介護予防を推進している。 *運動教材（古賀市こまめ体操作成・家トレ手帳・フレイル予防教材・インターネット動画配信・DVD作成等） *音楽教材（介護予防鍵盤ハーモニカテキストNO1～NO4・家トレCD等） 地域の住民活動や社会資源の情報共有を図り、地域支え合いネットワーク通信を発刊し、住民や行政のなかでも活用されている。 各校区の社会資源を掘り起こし、つどいの場、配食事業者等の一覧をネットワーク通信に掲載した。 	<ul style="list-style-type: none"> 家でトレーニングを重視して、つどいの場で推進してきたが、新型コロナウイルス感染症拡大で集えなくなるとすべてが止まった。そのことで、教材を見直し、家で自主的に取り組める内容にしていくな必要が高まった。 高齢者のニーズに応じた情報を届ける手段の工夫が求められる。 *インターネットの活用等 	
	住民交流の場の構築・提供	<ul style="list-style-type: none"> 地域のつどいの場の支援 高齢者の交流の促進（いきいきホールンピック大会、生き生き音楽交流会） ご近所カフェの支援 	<ul style="list-style-type: none"> 3年間、年を追うごとに介護予防サポーターによるつどいの場への支援が充実し、つどいの場の自主性が向上している。 いきいきホールンピック大会や生き生き音楽交流会において、介護予防サポーターやシニアクラブなどがゆいの職員との関わりのなかで、住民主導で運営を担える力がついてきている。また、イベントの規模も大きくなりながら定着が進んだ。 平成31年度より、より身近な高齢者のつどいの場の充実を図るため、「ご近所カフェ」の取組を開始した。ご近所カフェ代表者の交流会を3カ月に一回開催しており、新たなつどいの場が立ち上がっている。 令和2年度のホールンピック大会を試みでリモートで行う。参加者には期待感がある。 	<ul style="list-style-type: none"> つどいの場で運動等を行う介護予防を推進してきたが、新型コロナウイルス感染症拡大で集うことが難しくなったため、自宅で自主的に取り組める教材開発を行う必要が高まった。 高齢者のニーズに応じた情報を届ける手段の工夫が求められる。 *インターネットの活用等 	
	地域活動と社会資源のマッチング	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防サポーター活動支援事業 地域の介護予防、生活支援相談 出前講座の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 介護予防サポーターの登録者数、支援回数及び活躍するつどいの場等が着実に増加している。 出前講座の依頼が増えている。 介護予防サポーター活動支援事業がサポーターや活動する場に定着することで、ルールが浸透しトラブルが減少した。 	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症拡大で活動が中止となり、再開ができないつどいの場もある。出前講座の依頼も少なく、活躍の場がないサポーターの意欲が低下している。地域活動を活性化し、サポーターの意欲を取り戻すことが課題である。 	
	地域介護予防・生活支援の推進	<ul style="list-style-type: none"> 外出促進事業 家トレ相談室 	<ul style="list-style-type: none"> 外出促進事業の認知度が拡がり、参加登録イベントの増加や参加する住民が着実に増加している。また、おでかけハンドブックは、古賀市内で行われているイベント情報誌としての役割も果たしている。 園児や学生等が手書きで高齢者に向けたメッセージを入れた「フレイル対策カード」を作成し、ゆい関係者、シニアクラブ、福祉会等に配布する。 ゴミ出しについて関係者を集めて会議を開き、市内の先進事例や既存のサービスについて学習し、情報の共有を図った。 自宅で自分でできる介護予防の習慣化をめざして、家トレの啓発を強化した。また、自分に合った運動のきっかけづくりや継続のための相談ができる「家トレ相談室」の取組を始めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 外出促進事業は、これまで順調に成果を上げていたが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大のため、中止とした。通年で事業を実施するための課題も含め、どのような方法で再開するのか検討している。 フレイル予防の重要性の啓発及び推進 家トレ相談室の住民周知及びゆい以外での実施 	